



○「資格と職業について」を講話する
名古屋工学院専門学校 石原昭さんと
電気科1年生の生徒

10月13日（水）、波崎高校電気科1年生が名古屋工学院専門学校ならびに東洋ビルメンテナンス株式会社から講師をお招きし、「資格と職業について」と「ビルメンテナンスの仕事内容と国家資格について」の講話を行いました。

技術者不足が進行している昨今において、電気が担う社会的役割と資格取得の重要性を理解し、学生生活や将来に対する意識の向上を図りました。

招待した講師2名の内、東洋ビルメンテナンスの佐々木真さんは本校の卒業生であり、現場で電気業務に携わるなかで、社会における電気の需要増加と担い手不足について懸念を抱き、名古屋工学院専門学校と共同で普及活動を行っていました。

そして、本校の校長である黒澤義生先生の教え子であったことから、電気科の生徒向けに講話を提案していただき、実現に至りました。



○「ビルメンテナンスの仕事内容と
国家資格について」を講話する
東洋ビルメンテナンスの佐々木真さん

まず、名古屋工学院専門学校の石原昭さんが「資格と職業について」講話を実施しました。

「電気工事士」や「電気主任技術者」などの資格試験に挑戦するなかで、その資格が社会でどのような価値や意味を持つか正確に認識させるために、実例を多く取り入れた講話内容に生徒たちは食い入るように話を聴いておりました。

「資格の取得」が目的ではなく、その先に見据える目標を明確に示すことが学習に対する姿勢を向上させると話す石原さんに生徒だけでなく、先生方も心を打たれていました。

また、有名大学を卒業していなくても、電気の資格を利用して大手企業で活躍している実例を多数教えていただき、電気を学習することへの将来性を認識していました。

「ビルメンテナンスの仕事内容と国家資格について」の講話では、様々な電気の業種について紹介を取り入れながら、ビルメンテナンスの業務について講話していただきました。

本校は地域性からビルメンテナンスの業務を認識する機会が少なく、進路を考える際も近隣の工場を希望することが多いと感じています。その生徒たちが、新たな業種を知り、電気の知識と技術は地域に影響されることなく必要とされていると知り、進路の視野を広げている様子が伺えました。

講話を終えた生徒たちの多くが「資格が持つ価値や意味を理解することができた」と話しており、資格取得への目標と将来に就きたい職業に対する考えが活発化していると感じることができました。



○講話に対する感謝を伝える
学級委員長 松井司くん